



特集 高齢者のスキントラブルとその予防・ケア

皮脂欠乏症・乾皮症 （老人性乾皮症）

菊地克子
医療法人社団 廣仁会 仙台たいはく皮膚科クリニック

- Point**
- ▶ 高齢者皮膚は乾皮症になりやすく掻痒による掻破や続発性の湿疹をきたす
 - ▶ 病態に角層の滞積と皮脂，天然保湿因子，発汗の減少が考えられる
 - ▶ 石鹸を泡立てない，強く擦るなど不適切な洗浄方法を止めるよう指導する
 - ▶ 塗りやすさや使用感など高齢者に配慮した保湿剤を選択する
 - ▶ ステロイドの長期外用による皮膚萎縮や紫斑形成，バリア低下に注意する

はじめに

皮脂欠乏症は，単に皮脂が欠乏している状態をいうのではなく，乾皮症と同義の乾燥症状を呈する皮膚疾患の総称です。皮脂欠乏症（乾皮症）は，本章に記す加齢により生じる老人性乾皮症がよく知られています。その他，皮脂欠乏症には，皮膚機能が未成熟である乳幼児に生じるもの

や，アトピー性皮膚炎や魚鱗癬などの皮膚疾患や糖尿病，慢性腎臓病などの全身疾患に併発するもの，上皮成長因子受容体（epidermal growth factor receptor；EGFR）阻害薬など一部の抗がん剤や放射線治療後に生じるものなどがあります¹⁾。

老人性乾皮症の病態

乾皮症の臨床像
老人性乾皮症に限らず，乾皮症の皮膚は，^{ひこく} 粗糙

状あるいは鱗状の白色の乾いた鱗屑が付着し，皮表が粗造になっているため，触るとカサカサ，ザラザラしています（**図1 A**）。かゆみを伴うこと



図1 老人性乾皮症および皮脂欠乏性湿疹の臨床像

が多くあります。乾皮症では皮膚表面の角層に含まれる水分量が低下し角層の柔軟性が低下します。乾皮症が悪化すると，鱗屑が厚く大型となり，表面に浅い亀裂を形成します。掻痒のために掻破痕を混じることや，亀裂部周囲で続発性に湿疹性変化をきたすことがあります，これを皮脂欠乏性湿疹と いいます（**図1 B**）。老人性乾皮症は，脂漏部位以外の腰腹部，臀部，四肢に好発します。

皮膚の潤いを保つ因子と老人性乾皮症の病態

乾皮症の皮膚では，潤いのある皮膚と比べて角層，とりわけ角層浅層～中層の水分含有量が少ないことが知られています。乾皮症のある皮膚でも顆粒層以下に含まれる水分の割合は，潤いのある

皮膚と同じで差はありません。また，高齢者においては真皮の線維芽細胞などの細胞成分や膠原線維や弾性線維などの基質成分が減少することから，真皮内の水分の割合は，若年者よりもむしろ多いです。角層の水分含有量は，生きた表皮に接する深部は多く，外界に接する浅層ほど少ないという勾配を有するため，角層が厚いほど角層表面の水分は少なくなります。高齢者の皮膚は，若年者に比べ真皮や生きた表皮は薄いものの，角層のターンオーバーが遅延して角層層数は多く厚いため，浅層の水分量が少なくなる傾向があります。

角層の水分保持には，①天然保湿因子，②皮脂，③角層細胞間脂質が関わり，さらに，角層から水分を喪失しないために皮膚バリア機能が健全であ